

みやこ町図書館だより 2010冬

ふくろうの森通信

発行 2010年1月1日 第7号



新しい年をむかえて

明けましておめでとうございます。昨年は決して明るい年とは言えませんでした。今年こそいい年になるようお願いいたします。図書館でもみなさんの暮らしに役立つ本を提供したり、様々なイベントを通して図書館をより多く利用していただけたらと思います。



昨年の10月から11月にかけてこんなイベントを行いました

～昨年秋の読書週間では、製本講座や映画上映会、ブックリサイクルなどを行いました～

自分だけの本をつくる 製本講座

手作りの絵本を作ってみよう

(11月13日)

文庫本をハードカバーに

(11月14日)

※ 製本工房リーブルの岡野暢夫さんの指導のもとすてきなマイブックを作ることができました。



ブックリサイクル

11月1日から開催。初日から大盛況となりました。

秋のスペシャル映画会「おくりびと」

10月25日より各館で上映しました。話題の映画の上映会だけに、多くの方が来場されました。

～子どもの読書活動推進ボランティア養成講座では紙芝居講座を行いました

「すばらしい紙芝居の世界～演じ方・選び方～」

11月25日に講師の中平順子さんを迎えて、行われました。幼児対象の紙芝居の実演のあと、読書ボランティア、施設職員など紙芝居に関心のある人を対象に講座をひらきました。翌日は、勝山苑でお年寄り対象の実演が行われました。参加者は、講師のお話に熱心に耳を傾け、また紙芝居の演じ方についていねいな指導を受けました。



芥川賞・直木賞とは？

まもなく文藝春秋社主催の賞である芥川賞・直木賞の下半期の発表があります。毎回話題になるこの2つの賞は、一体どういうもので何が違うのでしょうか……。少し調べてみることにしました。

ふたつの賞が創設された経緯は？

文藝春秋社社長の菊池寛により、一九三五年に友人の直木三十五と芥川龍之介を記念して、新人賞の構想で創設されました。戦中から戦後まで四年間の中断を経て、二〇〇九年上半期の受賞で一四一回になります

その違いは？

芥川賞は、各新聞、雑誌（同人雑誌も含む）に発表された純文学短編作品中最も優秀なものに与えられるものです。直木賞は芥川賞と同時に制定されました。各新聞、雑誌（同人雑誌も含む）あるいは単行本として発表された短編および長編の大衆文芸作品中最も優秀なものに与えられるものです。共に新人が対象となっていますが、作品発表のタイミングがずれて、遅れて受賞することもまれにあります。

選考の時期はいつですか？

芥川賞、直木賞の受賞はどちらも年二回行われます。上半期（十二月一日～五月三十一日まで）に公表されたもの、選考会は七月中旬に行なわれ、贈呈式は八月中旬です。下半期（六月一日～十一月三十日まで）に公表されたもの、選考会は翌年一月中旬、贈呈式は二月中旬です。

選考会に先立ち、候補作品を数作選び、それを選考委員会に出すこととなります。その作業は文藝春秋の社

員が当たるようです。

受賞すると何か貰えるのですか？

正賞としてロンジンの懐中時計、副賞として百万円（二〇〇八年現在）が授与されます。受賞作は芥川賞は『文藝春秋』に、直木賞は『オール読物』に各々掲載されます。お金や品物より、今後作家としての立場が確立されるという事の方が大きいと思われれます。

誰が審査するのですか？

今年度現在の選考委員は

- | | | | |
|-------|--------|-------|--------|
| 【芥川賞】 | 池澤 夏樹 | 【直木賞】 | 浅田 次郎 |
| | 石原 慎太郎 | | 阿刀田 高 |
| | 小川 洋子 | | 五木 寛之 |
| | 川上 弘美 | | 井上 ひさし |
| | 黒井 千次 | | 北方 謙三 |
| | 高樹 のぶ子 | | 林 真理子 |
| | 宮本 輝 | | 平岩 弓枝 |
| | 村上 龍 | | 宮城谷 昌光 |
| | 山田 詠美 | | 宮部 みゆき |
| | | | 渡辺 淳一 |

この賞に対する風評は？

当初から二つの賞に対しての商業性が問われてきましたが、設立者菊池寛は「半分は雑誌の宣伝にやっているのだ」とその部分は認めています。財団法人日本文学振興会を創設し両賞を運営してきましたが、その財源は文藝春秋社からの寄付により成り立っているのも事実です。また選考委員の顔ぶれもほとんど変わらず、作品の選定に偏りがあるのでは？などとも言われています。

私たちに身近な受賞者はいますか？

北九州やみやこ町にも、ゆかりのある受賞者がいます。

芥川賞

【鶴田知也】

第三回上半期「コシヤマイン記」

【火野葦平】

第六回下半期「糞尿譚」

【松本清張】

第二十八回下半期『ある「小倉日記」伝』

【村田喜代子】

第九十七回上半期「鍋の中」

【平野啓一郎】

第一二〇回下半期「日蝕」

【藤野千夜】

第一二二回下半期「夏の約束」

【神崎武雄】

第十六回下半期「寛容」

【多岐川恭】

第四〇回下半期「落ちる」

【佐木隆三】

第七十四回下半期「復讐するは我にあり」

【赤瀬川隼】

第一一三回上半期「白球残映」

参考資料

- 「福岡と芥川賞直木賞」福岡市総合図書館
- 「それぞれの芥川賞直木賞」豊田建次 文藝春秋
- 「近代日本文学史」日外アソシエーツ株式会社
- 「文学賞メッタ斬り！」大森望 パルコ



図書館司書おすすめ チェック本

『絶対ボケない生活』

フレディ松川（著）廣済堂出版



高齢化社会を迎え、「老人性痴呆症」患者の数も二百万人を超えてしまう時代となりました。どういった生活習慣がボケをまねくのか、ボケやすいタイプとは・・・30年以上認知症患者を診察・治療してきた著者の経験から、その予防

法を提案しています。(2009刊)

『君はわらうかな』

菊田まりこ（著）学研教育出版



うさぎの男の子と女の子の可愛いお話です。

「もしも背中につばさがあったなら、僕はどこへとんでゆくとする？」と男の子は尋ねます。女の子は考えます。男の子の飛んで行きたい所はどこ

なのでしょう・・・。子どもから、大人まで楽しめる絵本です。(2009刊)

『かしこいモリー』

ウォルター・デ・ラ・メア（再話）中川千尋（訳）

エロール・ル・カイン（絵）ほるぷ出版



モリーは二人の姉と森で迷ってしまい、人食い大男の家にたどりつきます。あやうく食べられそうになりますが・・・。

イギリスで古くから語り継がれている昔話を、ウォルター・デ・ラ・メアが再話し、エロール・ル・カインが華麗な絵をつけた絵本です。(2009刊)

『詩の本』

谷川俊太郎（著）集英社



「詩の一行は頼りなげです」。これは、「一行」という詩の最初です。でも、詩集のなかのことは頼りなげではなく、ひとつひとつのことが、胸にしみこんできます。詩集を開く機会はないのですが、ゆっくり時間をかけて読み、ことばの美しさを味わい、贅沢な時を過ごしたい、そんな気持ちになります。(2009刊)



(質問)

昔読んだ絵本で、垣根でおばあさんが豚を追い出そうとするがなかなか出て行かないというような内容だった。絵本を読んでゆき最後のページから再び戻って読んでいくと話が終わる本だった気がする。月刊誌かもしれない。タイトルは解らないが、出版社はチャイルド出版だと思う。

(回答)

「おばあさんとこぶたのぼうぼう」 与田準一・文 杉浦範茂・絵 チャイルド本社

内容から資料検索で「おばあさん」と「ぶた」で検索すると童心社から出版されている「おばあさんとこぶたのぼうぼう」（お休み前の絵本④）という本が見つかりました。イギリスの昔話で内容を見てみると質問者の記憶と共通している部分がありました。書誌情報でチャイルド社から出版されているかを調べてみると与田準一・文 杉浦範茂・絵でチャイルド本社から1976年が初版、1982年に「ひさかたメルヘン29」（月刊誌）として再販されていました。どちらも装丁が中綴じになっており、念のためインターネットで調べてみると、表紙の絵も同じであり、内容も右ページから読んでいき最後のページでひっくりかえして、左ページを読んで戻るというしかけになっているところも質問者の記憶と一致しました。当館には無かったので、他図書館より借受けました。



1月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						

3月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

※1月1日(金)から1月4日(月)まで
休館します

開館時間 : 10時から18時まで
休館日 : 毎週月曜日・毎月末(この日が
月曜日の場合翌火曜日)

お問い合わせ

- みやこ町中央図書館
みやこ町豊津 1122-12 ☎33-1040
- みやこ町犀川図書館
みやこ町犀川古川 50 ☎42-3330
- みやこ町勝山図書館
みやこ町勝山黒田 86-1 ☎32-3455

ホームページアドレス

<http://www.town.miyako.lg.jp/library/top.jsp>

本のある風景

豊津寺子屋

「豊津寺子屋」の活動は豊津地区の3校区の小学生を対象にして、放課後や夏休みに行われています。主婦や退職された方などが指導者となって、子どもの学習や体験活動を行っています。その中に月に数回のおみきかせのプログラムもあります。本離れしている子どもたちに本に親しんでもらうための活動です。季節行事や社会の出来事に対する啓発になるような内容を選ぶよう、心がけています。おみきかせだけでなく、一人一人静かに本を読む時間も確保して、人間形成に役立つ場にもなっています。



声

このコーナーでは、利用者の皆さんからよくある質問をご紹介します

自分が今までどんな本を借りたのか、過去の貸出履歴を調べてほしい。

みやこ町図書館では個人情報保護のため、「誰が何を借りていたか」という履歴は返却されると削除されることになっています。そのため、過去の貸出履歴は調べることができません。ご了承ください。

※今借りている資料の確認はできます。



編集後記
新年、おめでとうござい
す。今年も良い年であります
ように。
今回は、芥川賞と直木賞に
ついて考えてみました。文学
賞はたくさんありますが、一
番話題になるのは、やはり芥
川賞と直木賞のようです。郷
土の作家もいますので、作品
に触れてみましょう。(有)